毎日歌壇

水原 紫苑 選

哀しみの水面に睫毛を浸からせてT・カポーティ入水はせず　東京 境 千尋

△評▽作家は、深い水のあまりにも近くにいたために、かえってそこに身を投じることはできなかったのかもしれない。

キリストと時を同じく誕生のセコイア切株壁に磔　加古川市 畑 啓之

△評▽キリストと同じ時間を生きたセコイアが、背負ったものはなんだろうか。

うつくしい賭けをするなら雨の夜に、蕾のままの百合を贖う　加古川市 石村 まい

直線で四角い紙を折るだけで金魚になれる鶴にもなれる　倉敷市 中路 修平

生まれ出て自由に飛んで消滅しどこが違うのシャボンとわたし　神戸市 中林 照明

飛行機のおおきなおおきな腹のなか世に出る前の赤子のきもち　八千代市 朱 虹

きよらかにロゴスを捨てた黒き目の麒麟は重い睫毛を伏せる　大阪市 羽水 繭

くびすじを日傘の軸で冷やすとき断頭台の王妃を思う　川崎市 椚田 宏明

夏空のど真ん中まで来たらしい。きみのWi-Fiの圏外にいる　所沢市 里見 脩一

百万年の記憶を抱いて胡桃その脳のようにしずかな怒り　米国 倉橋 糸

伊藤 一彦 選

校庭の焼却炉へと放りこむ半紙に「夢」のあまた燥げり　東京 浅倉 修

△評▽生徒たちが習字の時間に書いた「夢」のホゴ紙。結句が印象的である。生徒のおのおのの夢が実現してほしい願いにもとれる。

古びたる名刺ホルダーに名を残す我が人生の共演者たち　前橋市 内山 征洋

△評▽「共演者」の語がいい。これを使ったところに作者の人生観が出ている。

これからも年を重ねていく希望三十数年ぶりの再会　堺市 一條 智美

バス停の日陰に生える草のごと目だたぬことを着実にする　札幌市 住吉和歌子

虫食いのリンゴに命名「かめふじこ」売れてる記事に心和みぬ　野田市 石原 典武

東京行き三人掛けの真ん中に収納されて四角くねむる　長岡市 三月 とあ

賃上げの原資たとえば開発費 そうはいかない競争社会　座間市 高橋 貴子

効率を求めて人を変にして知らぬ存ぜぬ決めてる輩　塩釜市 高橋 永喜

スーパーのベンチで金の算段をしてゐる人と目をそらしあふ　市川市 岡本 恵

車いすの人に出会った交差路で笑み合い自然に後押して渡る　長野市 大沢喜美子

米川千嘉子 選

一票を入れてやるから俺にくれ名前を叫ぶだけのマイクを　四日市市 早川 和博

△評▽候補者はただ名前を連呼しているだけのようだ。ならばそのマイクを「俺」に。「俺」も「叫ぶ」。何を?

祖母言ひき分限者の蔵には古古米が貧乏の家は早から新米　京丹後市 山副美佐子

△評▽分限者とはお金持ちのこと。蓄える余裕のない家は新米までどうしのぐのか。

私にも知らない私はいるだろう金属探知機に息を止める　東京 遠野 鈴

朝顔のカーテンの奥ひそやかに増える蟻地獄の巣　札幌市 佐々木さと子

羅漢寺は98パーセント外国人長い脛にて石段登る　京都市 高橋よしこ

病院の診療終えたバス停で蚊がひっそりとまたも採血　東京 佐藤 一郎

脳トレをしているごとくに読む古事記神々の名のいたく縺れて　大阪市 森川 慶子

風呂上がりにシャドウピンクのマニキュアを九十歳までは子らに頼らず　横浜市 大沼 和子

＜かきかた＞の鉛筆なんと書き易き＜生き方＞といふ鉛筆欲しき　大阪市 岡田マチ子

始まりは滴より成る島なれば汗と涙の選挙演説　宮崎 門田 祥子

加藤 治郎 選

きみの耳花火の音が塞いでてぼくの「ごめん」は宙をただよう　所沢市 里見 脩一

△評▽臨場感のある作品だ。2人は花火の音とざわめきの中にいる。そんな場面で謝るところに微妙な心理が表れている。

いいですかアン・ドゥ・トロワでいきますよ アン・ドゥ・トロワ はい終わりです　東京 富尾 なつ

△評▽シンプルな歌である。レッスンの始まりと終わりのみだ。音が心地よい。

うわごとのように真夏を繰り返しあなたは何を取り戻したの　長岡市 三月 とあ

あじさいがふくらんでゆく想いとは色の世界にうずくまること　兵庫 廣澤 真希

鳥たちは知っとるだろう自らがチャーリー・パーカーの音であること　雲南市 熱田 俊月

素晴らしい人生だったと手を振って祇園精舎の風になりたい　枚方市 坊 真由美

分流、制水、逆流防止、大雨に備えしゲートを今日もテストす　春日市 伊藤 亮

新品の靴下を履く 僕だけの祈りの時間として丁寧に　名古屋市 森本 有

こぼれにくく改良された納豆のタレの袋に感じる平和　久留米市 春日 登

フレンチのあとにコーラを買って飲む 僕たちやっぱりこうでなくちゃね　熊本市 夏風かをる

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

こちらから投稿できます